

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒207-0005
東京都東大和市高木 3-315-1-2-2
<http://www.yumuyu.com/>
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up , TOHOKU !

無料

第 36 号

毎月発行

創刊 2015 年（平成 27 年）5 月 16 日 土曜日

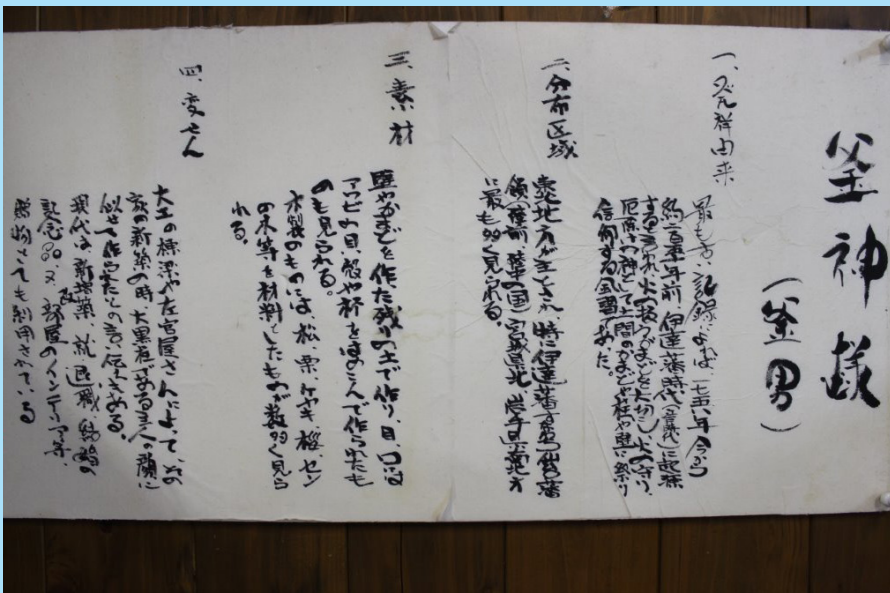
2015 年（平成 27 年）5 月 16 日 土曜日

釜神さまを訪ねて その歴史再発掘急務

宮城北部から岩手南部にかけて
継承される民間信仰、起源不明
アーティストと有志で継承続行中

釜神さま取材実現

ずっと以前から、宮城県
北部から岩手県南部にかけ
て細々と継承されてきた



釜神さまの由来



迫力ある釜神さま



一旦は津波で流されたが戻ってきた
釜神さま

「釜神さま」をいつか取材
したいと思っていた。
それで、知人、友人ルー
トを通じ、またその他ネッ
ト検索等でも、釜神さまを
制作しているアーティスト
や工芸家、工房、制作グル

ープ、販売している業者な
どを探し続けてきた。
そんなところに、友人の
アーティストから、高校の
先輩に釜神さまを制作する
アーティストがいることを
教えられた。

それだけでなく、筆者が
以前から探していたこと、
東北の鉄の歴史にも関連す
るという考えを持つている
こと、東北独自の宗教に関
連している可能性があること
を考えていること、今般の東

北大震災との関係で掘り起
こしが必要だと考えている
ことなどをすでに伝えたとい
うことであった。
筆者は喜び勇んで連絡を
取った。まだ実際にはお会
いしていない釜神さま制作
者は千葉さんという方で、
大崎市にアトリエを構える
工芸家である。

ご挨拶程度と思った電話
は長時間に及び、釜神さま
ルーツに始まり、東北の鉄
や物部氏との関連、出雲、

姉歯氏と会う

筆者は日曜日早朝の宮
城・古川駅に到着。最初に
仲介者であるアーティスト
の姉歯氏のオープンしたば
かりのギャラリーを訪問。

木工サークル取材と 釜神さま勉強会

姉歯氏の案内で、早速、
千葉氏が講師を勤める木工

そこでも積もる話が尽き
ず、大分予定時間をオーバ
ーした。
また、前述の千葉氏が制
作した釜神さまがギャラリ
ーに展示販売されていたの
で早速購入。ずっと人手し
たいと思っていたので喜び
もひとしお。

サークルにおじやました。
最初に、メンバーに紹介
され、その後思いがけず、
釜神さまの勉強会からスタ
ートすることになった。
釜神さまに関する文獻類
も非常に少なく、歴史もま
だ分からないこと
だらけである。

判明しているの
は、かまどの神、
火の守り、厄除け
の神として信仰さ
れてきたこと、宮
城県北部から岩手
県南部に分布して
いること、岩手県
大船渡近辺をかつ
て輩出拠点とした
優秀な「気仙大工
や左官」の集団の
活動領域と重なる
こと、判明してい

釜神さまルーツ諸説

しかし、これだけの見事
な造形であり、しかもかま
どに守り神として設置する
という決まりごともあり、
そうした慣習が二五十年
前に突如出現したというの
はどうか考えても無理があり
歴史はさらに遡る可能性は





初参加の若手が多数

『とにかく東北を語る会』

久方ぶりの開催だった、会に先立ち開催された講演会に出席の若手も多数初参加し大いに盛り上がる

昨年十月の山王遺跡探索、その前の中鉢美術館を見学して以来の「とにかく東北を語る会」の開催であった。そのため、仙台市青葉区の「星港夜（シンガポール

ナイト）」を訪問するのはずいぶん久しぶりであった。当日は、「語る会」に先行して、特攻潜航艇の制作に携わるなどした戦争経験者である大平達郎（みちお）氏による講演会も行われたが、その参加者のうち、若手の数名が「語る会」にも参加し、いつもより多数の会となった。

口火の話題はまず、最近の東北復興関連の話題であったが、前述の大平氏が突然、小著の『東北独立』の執筆動機について質問されたため、話題の流れがそちらに傾くこととなった。東北独立が単なる可能性の話ではなく、被災地を取り巻く昨今の厳しい状況に

より、より現実味を持つてきたという意見も、スコットランドや沖縄の独立話と併せて、多く聞かれた。また最近、五年目に突入した復興の費用の一部を政府が被災地自治体に負担を迫るということもある。加えて被災地沿岸部では、震災直後の地盤沈下とその対策としてのかさ上げで一息つく間もなく、最近のかさ上げが済んだ個所の地盤上昇で困っているという情報もある。

場所によつては数十センチメートルも上昇し、かさ上げと足すと、かなりの高さになり、漁業従事者は、結果的に不必要にかさ上げされた環境での作業を余儀なくされ、けが人まで出ているという話もある。

参加者に、福島県相馬市の教員もいて、福島第一原発とそこからの避難区域の問題に話題が移ると一挙に重苦しい雰囲気包まれた。原発誘致に至るまでの現地の過疎状況、財政状況、誘致後の原発関連補助金の自治体予算に占める大きな割合、短時間では変えられない財政構造、原発関連事業従事者の雇用問題、最近増加中の避難家族の離婚などが指摘された。

容易には解決しない課題をみなで深く共有した次第。最後に、3・11ショックを癒すにはどうするかという課題を提示された。とてもむずかしい話だが、じっくり検討すべきであろう。



ヒラタ貝

水産業再興のための料理レシピ紹介

第9回目

【菜の花とカツオのたたき春サラダとヒラタ貝の酒蒸し】



郷土料理愛好家
松本由美子氏



ヒラタ貝の酒蒸し

初鯉の季節になりました。そこで菜の花とカツオのたたき春サラダ、ヒラタ貝という貝を使った酒蒸しレシピをご紹介します！



菜の花とカツオのたたき春サラダ

作り方(ヒラタ貝の酒蒸し)

【作り方】

- ① ヒラタ貝は、30分でも砂だしをひたひたの水でしておきます。
- ② 鍋に浸るくらいのお酒をドバツと入れ、酒蒸しします。
- ③ お酒はケチらないで必ず、ひたひたにします。
- ④ 蓋が開いたら、適宜に火を止めてカイワレなど青味をのせて出来あがりです。

【ワンポイントアドバイス】

* 酒の肴に最高です！

材料と作り方

(菜の花とカツオのたたき春サラダ)

【材料】

菜の花 1/2束、カツオのたたき 200g、新玉ねぎ 1/2、カイワレ 1パック、「べんりで酢」ドバツと適宜、ごま油 大1、白ごま 適宜、にんにくチューブ又はすりおろし

【作り方】

- ① 菜の花を茹で、食べやすい大きさに切る。
 - ② 新玉ねぎをスライスして、水にさらす。
 - ③ 菜の花、カツオのたたき、新玉ねぎ、カイワレ、をごま油 大1、白ごま 適宜、にんにくチューブ又はすりおろしであえる。味が整うくらいドバツと「べんりで酢」を入れる。
- * ごま油と「べんりで酢」は相性がよいです。

火山活動に関する 正確な知識の習得 と必要な備えを

身近にあるのに知らないことが多い火山

昨年 9 月 27 日、長野県と岐阜県の県境に位置する御嶽山において水蒸気爆発が起き、死者 57 名、行方不明者 6 名という戦後最悪の人的被害をもたらしたことは記憶に新しい。日本には 110 の活火山があるが、これは世界にあるとされる約 1500 の活火山のうちの 7% に当たる。日本の総面積は世界の総陸地面積のわずか 0.25% に過ぎないので、いかに多くの火山が日本にあるかよく分かる。その割には、火山に関する知識や備えは、地震に関するそれと比べて、いまだ不十分なのではないかという印象がぬぐえない。火山の噴火にマグマ爆発と水蒸気爆発とマグマ水蒸気爆発の 3 種類があることや、火

山性地震と火山性微動の違いは何かということや、噴火の時に怖いのは溶岩流よりも火砕流や火山泥流であることなどを知っている人がどれだけいるかと考えると、至る所に火山のある土地で暮らしている割に、意外に火山のことを知らないことに気づかされる。

火山の噴火警戒レベル

気象庁は、火山の噴火災害軽減を目的として、全国 110 の活火山を対象に、観測・監視・評価の結果に基づいて噴火予報・噴火警報を発表している。このうち噴火警報は、大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流といった、発生から短時間で火口周辺や居住地域に到達するために避難までの時間的猶予がほとんどなく、生命に危険を及ぼす火山現象の発生やその現象の危険が

及ぶ範囲の拡大が予想される場合に、「警戒が必要な範囲」（その範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ範囲）を明示して発表されることになっている。

噴火予報・噴火警報には 5 段階の「噴火警戒レベル」が設定されている。噴火予報はレベル 1（平常）で、噴火警報はレベル 2（火口周辺規制）、レベル 3（入山規制）、レベル 4（避難準備）、レベル 5（避難）となっており、レベル 4 とレベル 5 は対象範囲が火口周辺だけでなく居住地域に及ぶために特別警報という位置づけである。

東北の活火山とその恵み

火山噴火予知連絡会は「火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要な火山」として 47 火山を選定している。気象庁はそれを受けてそれら 47 火山に観測施設を整備して「常時観測火山」として 24 時間体制で火山活動を監視している。この 47 火山のうちの実に 10 の火山が東北地方にある。具体的には北から、岩木山、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、鳥海山、栗駒山、蔵王山、吾妻山、安達太良山、磐梯山である。これらの他に、常時観測の対象から外れてはいるが、恐山、八甲田山、十和田、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳が活火山であるとされているので、東北地方には合わせて 18 の

活火山があることになる。

これら多くの火山のお蔭で、東北には実に豊富な湯量、多彩な泉質の温泉が多数湧出している。震災前のデータだが、東北六県には 650 の温泉地があり、これは全国の温泉地の約 21% に相当する数である。火山の「恵み」はそれだけではなく、火山の中腹より上は麓よりも降水量が多いが、隙間の多い溶岩でできている火山に水はしみこみやすい。しみ込んだ水は火山の中で濾過されながら麓に向かって流れ、溶岩の切れ目から湧出する。火山の周辺には湧水が多いがそれも貴重な恵みである。火山は地球の深いところから様々な物質を運んでくるため、金属類の鉱脈が見つかったりする。かつて東北は一大産金地帯だったが、これも火山活動の賜物である。また、火山灰質の土壌は水はけがよい土を好む農作物の栽培にとつて適地となる。噴火のリスクはこうした火山の「恵み」とのトレードオフであると言える。

蔵王山と吾妻山の レベル引き上げ

昨年後半から今年に入つて宮城県と山形県にまたがる蔵王山で御釜付近が震源とみられる火山性地震が増加していることから、気象庁は「今後、小規模な噴火が発生する可能性」があるとして、「想定火口域（馬の背カルデラ）から概ね 1.2 km

の範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒」するよう呼び掛け、噴火警戒レベルをレベル 1（平常）の噴火予報からレベル 2（火口周辺規制）の火口周辺警報に引き上げた。

蔵王山麓には、宮城県側には遠刈田温泉、山形県側には蔵王温泉があるが、「想定火口」から遠刈田温泉までは直線距離で約 11 km、「御釜」から蔵王温泉までは約 6 km 離れているので、いずれも想定火口区域から概ね 1.2 km の範囲で警戒すること求めている今回の火口周辺警報の範囲には含まれない。このような場合、にもかかわらず、何となく周辺地域も危険であるかのような印象を持つてしまうことも往々にしてある。今回の警報はあくまでも「火口周辺警報」であり、火口から一定距離以上離れた場所が危険なのではないということとはよくよく頭に入れておきたい。

歴史的な噴火も手掛かりになる。蔵王山は古の記録や噴火の痕跡から、有史以降は 773 年以来、少なくとも 33 回は噴火していることが分かっている。そのように見えてくると、ここ数十年比較的水平だったのが逆に古来稀なことであったと見ることもできる。

一方、福島県と山形県にまたがる吾妻山では、昨年 12 月 12 日に火山性微動が発生し、その後も火山性地震

が増加傾向となっていることから、噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引き上げられている。

こちらは有史以降は 1331 年以来、少なくとも 6 回噴火している。1996 年以降は火山性地震や火山性微動が観測され、2008 年以降は噴気が噴出している。今年の 4 月 30 日から 5 月 3 日まで、火山性ガスの基準値超過に伴つて、山岳道路の磐梯吾妻スカイラインが通行止めになったのも記憶に新しい。

こちらも噴気が噴出して いる大穴火口から福島県側の高湯温泉までは約 5 km、山形県側の米沢十湯の一つ姥湯温泉までも約 5 km であり、それらの温泉への直接の影響は今のところ考えられない。

ハザードマップや 解説情報の確認を

常時観測火山については国の防災基本計画に基づいて自治体や気象台などの関係機関が火山防災協議会を設置している。協議会では「いつ危険か」を示した「噴火シナリオ」、「どこが危険か」を示した「火山ハザードマップ」を作成すると共に、避難時期（いつ）、避難対象地域（どこから誰が）、避難先（どこへ）、避難経路・手段（どのように）を明示した「避難計画」を作成している。また、気象庁は「火山の状況に関する

解説情報」を随時出している。常時観測火山の近隣に居住している人や常時観測火山を訪れる人は、まずはこれらに目を通しておくことが望ましいと思う。

各火山のハザードマップは独立行政法人防災科学技術研究所（NIED）がサイト内にデータベースを作っている。

[\(http://vivaweb2.bosai.go.jp/v-hazard/\)](http://vivaweb2.bosai.go.jp/v-hazard/)
また、気象庁のサイトの「防災情報」、「各種データ・資料」、「知識・解説」のコーナーにはそれぞれ火山に関する情報が詳細に掲載されており、大いに参考になる。
<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

また、火山に関する知識という点では、日本火山学会のサイトにも一般向けの公開講座のテキストなどがアップされており、こちらも参考になる。

必要な心構えと備えを

冒頭触れた御嶽山の場合にも、9 月 27 日の噴火の前にも、9 月 9 日に 10 回、翌 10 日には 52 回、11 日には 85 回の火山性地震が観測されていて、12 日には気象庁が「火山灰等の噴出の可能性」があるとした解説情報を発表していた。ただ、惜しむらくはこの時の解説情報では、マグマの上昇を示すデータがなかったために警戒レベルの変更はなく、レベル 2（火口周辺規制）ではなかった。いかに火山噴火予知が難しいかが窺えるが、火山性地震や火山性微動の発生状況などを参考に必要な心構えと備えをしておくことは自分の身を守るためにも今後確実にやっていくべきことであろうと思う。

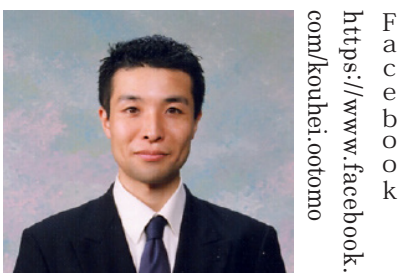
必要な心構えと備えは怠らず、かつ必要がない恐れは抱かない。それが火山と共に生きていかなければならない我々にとつて不可欠なスタンスなのではないかと考える。



東北には 18 の活火山がある（気象庁のサイトより）

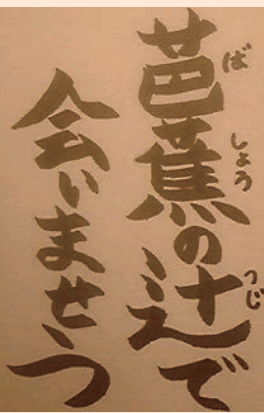
執筆者紹介

大友浩平
(おおともこうへい)
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。
「東北ブログ」
<http://blog.livedoor.jp/anagmasi/>



Facebook
<https://www.facebook.com/kouhei.otomo>

連載
むかしばなし



第二十四話
変身と覚醒の
白夜

「・・・まだ、日本語で聞こえますか、私の言葉は。」

宮澤賢治が微笑を見せながら、尋ねた。

「大丈夫です。だが、我々にはエスペラントがありま

す。」

佐々木喜善が応える。

二人は青葉山の高みを南に望む緩やかな坂を西奥へ進んでいた。昭和の時代にはおそろく城の大手門があり、更に奥へ向かえば東北鎮台が置かれる事になる二

の丸の地盤が広がっているはずである。賢治はずっと

小声で何事か呟いていたが、



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出沒し演奏する。フィドル（ヴァイオリン）担当。

一旦立ち止まると振り返って喜善に頭を下げた。

「喜善さん、申し訳ありません・・・お嬢さんまで、危険な目に遭わせてしまっ

て。」

「何を仰います、賢治さんのせいではない。元々の計は芭蕉さんが」

賢治はまた歩き始める。

「いえ、芭蕉さんのせいでもないのです。結果的に、芭蕉さんが元の時代に帰る

ための装置を作る事で、仙臺という町の土台ができるのですから。」

「賢治さんは、どこまでご存知なのですか。」

「古代、今の福島県の南端で、戦争があったのです。ヤマトタケルの東征として伝説に残っています

が・・・当地の住民達が、津軽の人々に救援を求めまし

た。そこで活躍された津軽蝦夷の一人、それが芭蕉さ

んという事なのです。」

「そんな・・・大昔の人ののですか、あのお坊様は。し

かし何故彼は、ご自分の時代を離れたりする事に。」

芭蕉さんは播磨まで跳ばねばならなかったそうです。」

「播磨・・・まさに敵地の真只中。なぜでしょうか」

「そこまでは聞けませんで

した。とにかく、強力な石が作られた訳ですが、それ

でかえって地球の裏側、スコットランドまで行つてし

まったという事なのです。」

「そんな所まで跳べてしま

うなんて・・・信じられない。」

「津軽の南、鹿角には巨石を並べた聖地があるらしい

のです。私どもの時代には火山灰に埋もれてしまつて

いるようなのですが、それとよく似たものがスコット

ランド始め、英国周辺には多いそうです。つまり實際

の距離よりも、強くつながる地域かも知れない、とい

う事です。地球の自転運動にも、関連するのかも。」

気がつく、またしても深い霧が立ち込めてきてい

て、二人の暗い視界を更に遮つていくようだった。

「喜善さん、寒くありませんか。大丈夫ですか。」

「不思議と寒さはないです。それにしても、青葉城は広大ですな。」

までしか移動できませんが、芭蕉さんは播磨まで跳ばねばならなかったそうです。」

「私は、仙臺の博覧会を観たら、遠く伊豆まで行く予定なのです。その友人の

作る、新しい学校のため

に。」

「新しい、学校・・・」

「私も花巻に、学校を建てたのですが・・・この三月に

共産党の一斉検挙がありま

したろう、集会のような事は難しくなりそうです。喜

善さん、元の時代に帰つても、また乱世ですな。」

「確かに。世界はどうなつていくか・・・娘達の行く末

が心配でならない。」

答えながら、喜善は己の身の恥ずかしさに唇を噛み

締めていた。若らを生生活苦に追い込もうとしているの

は、己の無能さ、生活力のなさに他ならぬではない

か・・・更にこの期に及んでとりあえず全ては仙臺と

いう都会に出てからだ、頼れるは最早生まれ持つてき

た文学への夢ひとつという有様。だがこの賢治という

男は、やはり己の夢に生きながら、何かもつと大きな事を見据えているような気がしてならなかった。

賢治は言つた後、ハツとして硬直した。周囲を、何かの群れに囲まれている気配がある・・・。

白い霧の向こうに、その正体が徐々に明らかになつてくる。賢治の腰までぐら

いの背の高さの何かが、わらわらと騒がしく動き、囁

き合っているように見えた。巨人だ・・・巨人だ・・・

そう言っている。人間だ。小さな人間達だった。小人

だ、と二人は思った。村から避難した人々に、大天狗

が魔術をかけたのだろうか・・・小人達が少しずつ後

ずさりしているように見え

たが、そうではなかった。更に、みるみる彼らは小さ

く縮んでいくのだ。

「いかん！喜善さん、私どもは、既に巨人です！」

賢治が叫んだ。霧の向こうに見上げる青葉山は低

なつていき、目前に近づいていた・・・大天狗によつて

怪物に変えられたのは、自分達の方だ・・・喜善もまた、

気づいたのだった。

＊

一体、何時ぐらいになるのか、今純三にはもうわからなかった。傍らの「蜂お

すめ」、ヤエトだった盲目の個体は、寝息すらたてる

初めての孤独を味わう今、純三の心には様々な思念が去来していた。華の都・東京で絵の腕を駆使して生活

しようと奔走していた、耀ける日々・・・芝居、映画の

美術も手がけたつけ。大東京にはさすがに多彩、想像

を超える仕事があるものだ。ところが夢も、町も、突如

大地震と大火が粉々に打ち

砕き、焼き尽くしてしまつた。

「お前は弘前へ帰れ。」

兄の和次郎は言つた。既に兄は早稲田大学の建築学

の教授になっていた。弟の俺より勉強が苦手だったの

に、絵の学校を出ただけで数年で建築の教授とは！た

まげた才能に違いない。翻

つて俺は兄を含め家族の猛反対を押しのけて、学問を

捨てて兄と同じ絵の学校へ進んだ。兄と違い、俺は道

を踏み外す事なく邁進して

たというのに・・・これが所詮、肩書きの有無の歴然たる差という訳か。

＊

ああ、ムカムカする！純三は髪をくしゃくしゃ掻き

むしつた。こんな負の妄想は切り捨てねば・・・青森では絵で食べるなど到底できないが、東京がこれまで以上の姿で復興を果たした

光景に身体をびくつかせた。「あ・・・兄貴・・・！？」

目の前の霧にすつと切れ目が入り、その向こうに自分と同じような丸眼鏡をき

らめかせて森の中を行く、旅姿の男が見えた。その横

顔が、他ならぬ、兄の今和次郎のものであったのだ。

そんな、馬鹿な。純三は思わず腰を浮かせ、そのま

ま前のめりに走り出していた。ヤエトの身体も忘れ、

そして大天狗の罠、見せられている幻、という可能性

すらも頭をよぎらなかった。ただ、鞆と画板は身体の一

部のように肩からぶら下がっている。

白く、厚い霧の中を進むと、さつと視界の障害は掻

き消えて、既に夜が明けたような、しかし澁んで憂鬱

な空気を醸し出す深い森の風景が広がっていた。

兄の後姿は確かにそこに

ある。既にかなり遠くに見えるが、兄が一人ではない

事もすぐにわかった。誰か背の高い相方と二人で森の

奥へ入っていくのだ。

＊

何なのだ？一体兄はこんな所で何をしているのだ？これが確認せずにおかりようか。歯をぎりぎり

く、白い部分も細かい金色の模様が広く覆っている。「見えぬのか・・・まあ、よい」

ヤエトの次に目覚めた女は早速、すぐと立ち上がり、

すんすんと鼻をならして周囲の匂いを嗅ぎ取り、一方

向・・・純三が走り去った方角に顔を向け、背筋を伸ば

し一步一步進み始めた。

＊

急峻な山腹に登り切った芭蕉は、仙臺城本丸が作ら

れる事になるであろう、頂上近くに達していた。そこ

には四百年後に伊達政宗が築く事になるのとは全く違

う、岩とむき出しの材木を組んだ無骨な要塞建造物が

聳えている。芭蕉はしかしさして驚きはせず、見上げ

てしばらくの間観察した。「忍び込むかえ。」

芭蕉を独り追つてきた、壇老人が傍らで言う。見下

ろすと、その顔は既に人間のものではなかった。

「あの馬鹿猫が来ぬうち

に」

鼠とも猫ともつかぬそれが、また西洋のパイプを取り出して火をつけ、そう呟

いている。「阿片で術が解けましたか」

「麒麟などではない。化け猫の術に午・未・申・酉が混合しただけじゃ。この山、

南西の魔界だすけな。」

「なるほど・・・だが、麒麟の出現は吉兆と言います

な。」

芭蕉は歩き出すが、門を

探しても無駄だぞ、と鼠は言うのだった。

「この石垣、登る為にある。」

そう言い放つと、鼠は岩に飛びつき這い登っていく

と、その時である。岩と岩の隙間から何か蛸の足のよ

うなもの伸びて、壇老人の身体を捉えた。ギャツと

いう悲鳴とともに鼠男の姿は石垣の中へ消え、入れ替

わりに巨大な爬虫類が顔を出し、這い出て全身を現し

た。「ヤモリか・・・」

怪物が次に芭蕉を狙って大きな口を開ける。すると、そこへ更なる途方もない大

きさの人間の手が伸びてきて、ヤモリをひよいと摘み

上げてしまった。

「や、やあ宮澤さん・・・大天狗の、粋な魔術ですな。」

見上げんばかりの大入道となつた賢治が、帽子を上げて苦笑いを見せた。

次回予告

遂に大天狗の根城へ・・・しかし更なる魔術の罠が！？というか、もはや賢治さんの方が大賢治さんじゃないのか！夜はまだ終わらない。

シリーズ 遠野の自然
「立夏」
遠野 1000 景より



河川の野焼き

二十四節気区分でいえば、五月初めは立夏。ちょうど端午の節句の五月五日ごろである。
カレンダーでいうならば、春分と夏至の中間であり、昼夜の長短を基準に季節を区分する場合には、この日から立秋の前日までが夏となるという。しかし、生活

実感としては、夏というには早すぎる。
*
遠野のこの時期は花盛りの季節である。紙面を埋め尽くすような花盛りは紙面だけでなく、現実の遠野でもそうである。
長い冬の間に関じ込められていた地中のエネルギー



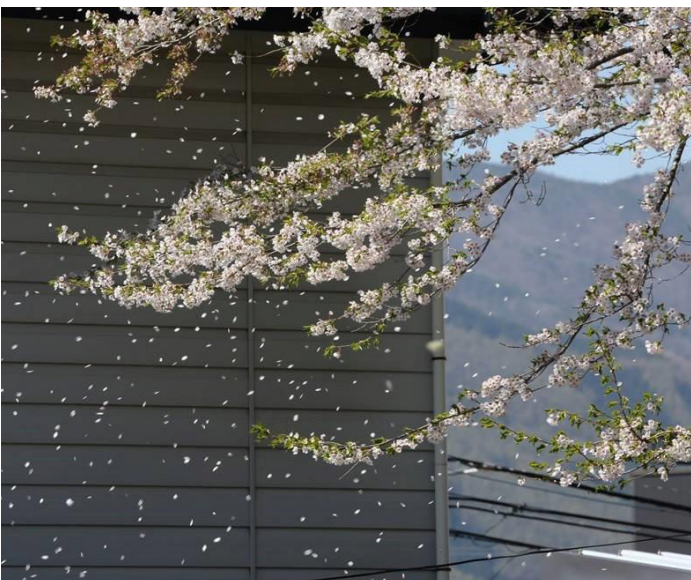
アケビ



キイチゴの花

が一挙に地上にあふれ出てくる季節。そのエネルギーが花となつて一斉に咲き乱れる季節である。
それは花々だけではない。人間も動物も同じである。気分は高揚し、冬の間は寒さで収縮していた身体も一挙に弛緩し、活動的になる。生命感あふれる季節である。

*
この季節の先導役は、河川の野焼きである。枯れた草木を焼き、害虫を駆除し、新たな生命の息吹を待つ儀式である。
写真の野焼きの炎の勢いはすごい。きつと近くで見たら圧倒されるであろう。
*
一方花々の方も、野焼き



花吹雪

の勢いに負けず劣らず、色とりどりで、鮮やかである。シバザクラのピンク色の鮮やかさは、チューリップとマッチし、激しく噴出する春を演出する。
*

も咲く。アケビの花は初めて見る。キイチゴの花も可憐である。キクザキイチゲ、ヤマシヤクヤク、シラネアオイなどもめずらしい。
先行した桜は散りはじめて花吹雪となる。次の季節到来を予告しているようだ。



シバザクラとチューリップ



シラネアオイ



ヤマシヤクヤク



キクザキイチゲ

ここぞしか体験できない 唯一無二の秘湯！ 秋田・玉川温泉

今回、紹介する『玉川温泉』は「奇跡の湯」とも称される。過去に放映された

TV番組や、旅行代理店の宣伝文句の影響によるものだが、実際に、末期がん患者が、“奇跡”を求め、薬をもすがר思いで集まる温泉ということは確かであろう。しかし、悪性腫瘍治療の効能があるともいわれる園地内の岩盤浴は、玉川温泉の魅力に一部に過ぎない。火山列島日本の荒々しさを肌で感じ、山懷に抱かれて東北の大地と一体化することで、心身ともに癒される―その玉川温泉の素晴らしさを、ぜひ多くの人に知ってもらいたい。

佐藤紀彦氏紹介

仙台市在住。不動産鑑定士。出身は県北の田園地帯・涌谷町。趣味は家内との温泉巡り。

非寛容・排他主義がはびこる時勢を憂う。

Facebook

<https://www.facebook.com/norihiko.sato.509>



◆マグマが生み出す 強酸性の湯

玉川温泉は、秋田県の北部、秋田・青森に跨る八幡平火山群の一面を構成するカルデラ状の活火山「焼山」の西方に位置する。この焼山、明治期以降も九度に亘り、噴火・小噴火（水蒸気爆発）を繰り返してきた、文字通りの“活きた火山”であり、火山噴火予知連絡会により、常時観測対象にも選定されている。なぜ、玉川温泉は「唯一無二の秘湯」と言えるのか？その謎を解く鍵は、この焼山の地表下で繰り広げられている温泉活動にこそある。温泉は「火山性」と「非火山性」に大別されるが、火山性の温泉であっても、そのメカニズムとしては、地中に浸透した雨水等が、マグマ溜まりの熱で温められ、地中の成分を得て、再び地上に湧出する循環型が始どであり、後生掛・蒸ノ湯・藤七等の八幡平一帯の温泉に限しても、水源は循環水である。しかし、玉川温泉に限っては、その成因が大きく異なる。玉川温泉の源泉、大噴（おおぶき）から湧出する高熱水は、マグマの水蒸気と酸性ガスを直接的な成分としており、

これが「マグマから直接噴き出す温泉」「火山活動の影響を受けた初期の温泉」と言われる理由となっている。噴出口からは98度の高温で温泉が溢れ出し、湯川となつて流路を形成しているが、単一の湧出口からの水量としては日本一を誇る毎分九千ℓ（調査年次により七千〜一万五千ℓの相違有）の熱水が、二〇〇年以上も絶え間なく噴き出し続けていることを思うと、何やら空恐ろしい気持ちにもなる。また、成因の違いは泉質にも表れており、源泉の水素イオン指数pH一・〇五は、強酸泉として有名な群馬草津温泉・山形蔵王温泉のpH一・四六、青森酸ケ湯温泉のpH一・七六を凌駕して、国内の温泉では最低値を記録し、硫酸ではなく、主に塩酸に起因する酸性泉という点でも稀少性が認められるものとなる。

◆玉川温泉の効能・効果

では、pH一・〇五、塩酸を主成分とする強酸性の温泉に入浴しても、体は大丈夫なのだろうか？ 参考までに、胃酸はpH一・一〜五程度とされ、普段は胃粘膜で保護されているものの、粘膜無くしては5秒で胃に穴が空くとされる。また、玉川温泉のお湯に包丁を漬けると一晩で刃がボロボロに融けるとのことである（草津温泉は「一週間で刃がボロボロ」と言われる）。

結論としては、強酸性であつても、人の皮膚・粘膜はこれに耐えられるようにできている。当初は、恐る恐る玉川温泉の浴槽に足を踏み入れるとしても、体が馴染んでくれば、実に心地よいお湯なのである。当然のことながら、個人差はあり、何にも刺激を感じない人から、「ピリピリ・チクチクするお湯」と表現する人、ピリつときた人など、感じ方は多様であろう。けれども、玉川温泉・新玉川温泉ともに、屋内入浴施設内には、源泉一〇〇%から五〇%、更に薄い弱酸性の湯までの浴槽をそろえ、熱湯・ぬる湯・気泡湯・蒸気浴・浸頭湯等々、バリエーションも豊富である。自分の体質と体調をみて、最も適した入浴方法を見つけられ良い。私は例えば、一泊二日の滞在期間中に殆ど痛みは感じず、最も酸性度が高いと言われる玉川温泉・源泉一〇〇%の浴槽に五度目に入った際に、ようやくお尻付近の粘膜がピリピリした程度である（家内は、新玉川温泉の源泉一〇〇%は平気であつたが、玉川温泉は稀釈された方を選択したそうだ）。

表皮下の乳頭層・乳頭下層までお湯が浸透することで、玉川温泉特有の温泉性皮膚炎を発症させる者が多い。しかし、この負荷によつて、本来の自己治癒力・免疫力が高まり、「万病に効く」とも言われる効能が現れることになる。塩酸だけではなく、硫酸やラジウム等の放射性元素、その他鉱物イオンが溶け込むことで、複合的に効果が高まり、玉川温泉公式ホームページによれば、浴治の効能として、①リウマチを含む神経系統の疾患、②血圧等循環器系統の疾患、③脊髄性並びに脳性小児麻痺、③貧血症並びに白血球減少症、④皮膚病、⑤生命の免疫力・抗菌力、健康増進に対する効果、⑥肝機能の活性化に対する効果、⑦疲労回復に対する効果、⑧細胞の活性化と若返りに対する効果が列挙されている。これら効能の解明は、昭和18年に設立された玉川温泉研究会の活動成果でもあるのだろう。なお、先ほど紹介した温泉性皮膚炎に関しては、不思議なことに、ピークを過ぎた後には次第に減弱し、入浴を続けるうちに治癒することが一般的といわれる。

◆玉川温泉の歴史

玉川温泉の起源を辿ると、平安初期となる八〇六年、焼山噴火の際に温泉が湧出したことが、その始まりのようである。今では道路網が整備されたため、秋田新

幹線「田沢湖駅」や東北自動車道「鹿角八幡平IC」から車で小一時間程度の時間距離にあるが、かつては山深い僻地ということもあつて、藩制時代に硫黄の採取製錬が行われた記録が残るものの、採掘事業廃止により、その後暫くは人跡未踏のまま放置されている。そして、歴史上、再び登場するのは、「鹿湯」（由来は、酸湯「スカユ」の訛つたものと、鹿が傷を癒していたことの二説）の名で湯治場開設願が出された明治15年となるが、当初は近郷近在の者が、マタギシか通らない道なき道を分け入り、山越えして入湯しに来る程度であり、大正時代の記録で、ようやく藁葺小屋2棟の存在が確認されるようになる。

しかし、当時においても名湯の評判は高かったと推測され、「三日一巡り如何なる難病にも効く」と謳われていた。

玉川温泉の本格的な開発は、昭和4年、当時の関直旅館（現湯瀬ホテル）代表であり、北海道の造林業で大成功を収めた五代目関直右衛門が、草津の湯でも治癒しなかつた難病の皮膚炎を、帰り道で立ち寄つた玉川温泉で僅か10日のうちに完治させたことを契機とする。その効能に驚愕した直右衛門は、3年後に鹿湯の経営権を取得して、県道延長のために巨額の寄付を行ったほか、昭和9年に「玉川温泉」へと改名、昭和18年には玉川温泉研究所を新築し、東大・東北大等の科学者を集めて研究活動を開始している。けれども、玉川温泉地区一帯は、アクセス条件が劣り、また、冬季は閉鎖されていたため、戦後の高度経済成長期でも、八幡平や田沢湖周辺のように、観光客が押し寄せることはなく、温泉旅館というよりは、療養的な宿Ⅱサナトリウムとしての性格が強かつたと考えられる。

転機が訪れたのは、昭和60年代初めのTV番組放映以降。当該番組内では、現代医学から見放されたがん患者が、一縷の望みをかけて、温浴療法とともに、玉川温泉園地内の岩盤浴による温熱療法にすぎないように集まり、治癒していく姿が映され、末期がんをも克服する、ラジウム等の低線量放射性鉱物の神秘性が過度に喧伝されたらしいがある。しかし、その宣伝効果はてきめんで、その後、玉川温泉の宿泊施設はなかなか予約の取れない状況が続くことになる。

◆人を惹きつけてやまない玉川温泉

ブームが過ぎ去つた今、玉川温泉が人気の湯治場であることには間違いないが、平成10年に客室数二〇九・収容可能人数五七〇の新玉川温泉がオープンしたこともあり、誰でも気軽に利用できる温泉保養地へと変化している。玉川温泉に電気が引かれ、更に、源泉100%の湯や冬季営業は開始されたのは平成3年のことと聞き、意外と最近であることに驚くが、このゆつたりとした時の流れも玉川温泉の魅力の一つであろう。野趣溢れる八幡平・焼山の眺めと、過去から連綿と続く鄙びた風情に心は和む。

なお、近年では、平成24年2月に園内の岩盤浴場で、表層雪崩に巻き込まれ3名が死亡するという痛ましい事故が発生している。しかしながら、噴火・硫化水素ガスの発生も含めて、自然災害への警戒を怠つてはならないことは言うまでもないが、過度の心配症は、大自らの営みに触れる機会を失わせてしまうことに繋がる。私としては、世界有数の火山国で生きる以上、畏怖する気持ちを忘れずに、大地の鼓動と共生し、その恩恵を十分に享受しなければ、勿体ないと思うのである。

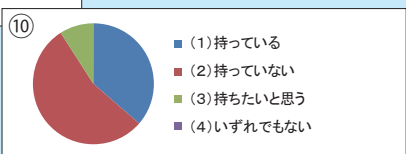
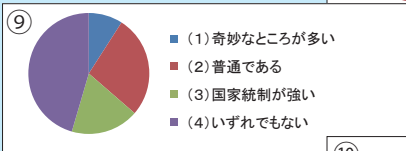
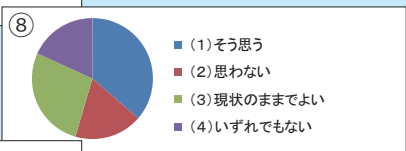
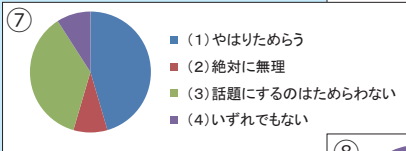
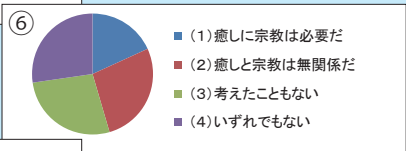
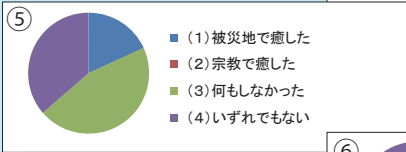
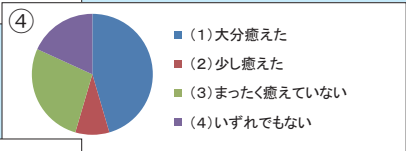
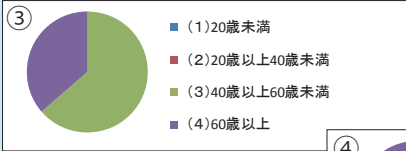
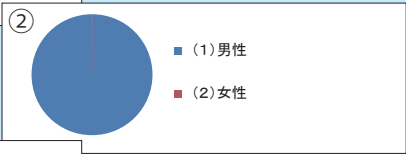
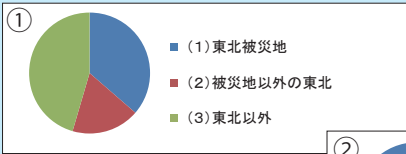
東北の深山、緑に包まれた玉川温泉。日本の岩盤浴発祥の地とされ、また、大噴から力強く溢れ出る熱水の泉質は、他の温泉に比肩しうるものがない。今回は紹介し切れなかつたが、自然遺産ともいふべき光景を堪能できる「玉川園地自然研究路」や、国の特別天然記念物第一号で、微量放射線を半永久的に放つといわれる稀少鉱物「北投石」についても、知れば知るほど、玉川温泉の魅力は深まるだろう。一度足を運んでしまうと、人を惹きつけてやまない玉川温泉、ぜひ多くの人に体験して頂きたい！



第 35 号 ネットアンケート集計結果

【3・11 ショックをどう癒したか？】

NO.	質問と選択肢	回答数
①	住所	
	(1) 東北被災地	4
	(2) 被災地以外の東北	2
	(3) 東北以外	5
②	性別	
	(1) 男性	11
③	年齢	
	(1) 20 歳未満	0
	(2) 20 歳以上 40 歳未満	0
	(3) 40 歳以上 60 歳未満	7
	(4) 60 歳以上	4
④	3・11 ショックは癒えたか？	
	(1) 大分癒えた	5
	(2) 少し癒えた	1
	(3) まったく癒えていない	3
	(4) いずれでもない	2
⑤	どうやって癒したか？	
	(1) 被災地で癒した	2
	(2) 宗教で癒した	0
	(3) 何もなかった	5
	(4) いずれでもない	4
⑥	3・11 ショックと宗教との関係	
	(1) 癒しに宗教は必要だ	2
	(2) 癒しと宗教は無関係だ	3
	(3) 考えたこともない	3
	(4) いずれでもない	3
⑦	宗教を話題にすることについて	
	(1) やはりためらう	5
	(2) 絶対に無理	1
	(3) 話題にするのはためらわない	4
	(4) いずれでもない	1
⑧	もっとオープンに宗教について話すべきか？	
	(1) そう思う	4
	(2) 思わない	2
	(3) 現状のままでよい	3
	(4) いずれでもない	2
⑨	日本人の宗教感覚について	
	(1) 奇妙なところが多い	1
	(2) 普通である	3
	(3) 国家統制が強い	2
	(4) いずれでもない	5
⑩	特定の宗教を持っていますか？	
	(1) 持っている	4
	(2) 持っていない	6
	(3) 持ちたいと思う	1
	(4) いずれでもない	0



今回は【3・11 ショックをどう癒したか？】。あれほどのショックをもたらした東北大震災をどう癒しつつあるか、または癒したかは重要な問題です。なかなか切り込み方がむずかしい問題ではありますが、五年目に入った今だから聞けるのではないかとかなりの勇気を出してお聞きしてみました。回答者数は設問のむずかしさもあり十一名でした。「3・11 ショックは癒えたか？」は「大分癒えた」が約 45.5%、「まったく癒えていない」は約 27.3%。「どうやって癒したか？」は、「何もなかった」が約 45.5%、「被災地で癒した」が約 18.2%。「3・11 ショックと宗教との関係」は「癒しと宗教は無関係だ」と「考えたこともない」が同数で約 27.3%、「癒しに宗教は必要だ」が約 18.2%。「宗教を話題にすることについて」は「やはりためらう」は約 45.5%、「ためらわない」は約 36.4%。「もっとオープンに宗教について話すべきか？」は「そう思う」が約 36.4%、「現状のままでよい」が約 27.3%、「思わない」が約 18.2%。「日本人の宗教感覚」は「普通」が約 27.3%、「国家統制が強い」が約 18.2%、「奇妙なところが多い」が約 9.1%。

「特定の宗教を持っていますか？」は、「持っている」が約 54.5%、「持っていない」が約 36.4%。判定が微妙な結果となりました。

編集後記

今回の記事のために予定していた、宮城・牡鹿半島周辺の取材が、筆者の財布紛失トラブルにより出来なくなりました。

理由は、取材予定前日に仙台市内で財布を紛失し、その財布のなかに運転免許証を入れていて、レンタカーによる牡鹿半島取材が出来なくなったためでした。他の交通機関での取材は場所柄困難であり、やむなく中止の判断に至りました。

そのため、宮城・被災地沿岸部の地盤上昇記事が空白となり、またこの時期に、被災地沿岸部の大変困った状況をレポート出来なくなりました。

寄りによって運転免許証を紛失するとはうつかりにも程がある。またこんなミスをする自分にすっかり自信を失ってしまいました。それらは個人的な問題ですが、仮にも新聞と銘打って活動する以上、こうした失態で、取材も出来ず、記事も書けず、紙面に穴を空けてしまったことを大いに恥じております。

大新聞のような読者数ではなく、アマチュア新聞であるという言い訳は通用しません。

被災地沿岸部の地盤上昇で苦しむ漁業従事者等の関係者の方々に深くお詫び申し上げますとともに、近いうちに再挑戦し、汚名挽回したいと思っています。

「東北を世界に！」プロジェクト募集

・プロジェクト募集要領

- ① 東北の復興、活性化、再興を目的としたプロジェクト企画であれば、何でも可
- ② 応募資格は特に定めず、被災地、被災地以外の居住も問わず、国籍・年齢・性別を問わず
- ③ 企画書のようなものがあれば可---形式自由（プロジェクト名、プロジェクト期間、目的、どうやって実現するかの手段、仲間などを明記していただきたいと思います）
- ④ ✕切はとくに設けません

「東北を世界に！」プロジェクト募集

・連絡先／企画提出先

（郵送） 〒207-0005
東京都東大和市高木3-315-1
ホームタウン宮前2-2
電子タブロイド新聞【東北復興】宛
（メール） yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

- ・ ご提案いただいた企画については、当新聞で責任をもって検討させていただいた上で、企画開始に向けてのしかるべき方法・手段をご提案するなり、企画実現のための仲間を募ってまいりたいと考えております。また、当新聞でご紹介させていただきたいと思ひます。（氏名公表か非公表かはご相談）

- ・ たくさんのご提案をお待ちしています